

四月二十八日

朝、早大隈講堂で理工学部新入生へのレクチャー。新しい時代の技術観について話す。若い学生に話す事の大事さは少しづつ了解できるようになったような気がする。手を抜かずに全力で話さなければならぬ。

午後二時十五分羽田発中華航空で台北へ。二川幸夫氏等同行四名。桃園国際空港には李祖原氏が迎えてくれた。超多忙な人なのに、この人物のホスピタリティにはいつも驚かされる。真似をしようと幾度も試みるのがいつも駄目だ。体力気力ともに及ばぬ。夜は同氏とデザイナー。その後同氏設計の国民党本部等見学。

四月二十九日

李祖原氏の案内で台中へ。台中市内のレストランで昼食。凄いメニューに一同感嘆。後で聞けば案の定昨夜台北から李祖原が直接コックに指示をしていたとの事。ベジタリアンになっても李の舌は相変らずのモノだ。昼食後、プーリの中台禅寺へ。途中山岳の風景が樹木もなく荒涼としていて、まるで禅画の山水図だねなんて呑気な話をしていたが、なんと台中大震災の爪跡で、山の樹木は全てそぎ落とされたものであった。無知は恐い。

中台禅寺はCY・LEE（李祖原）の最新作で、あまりの巨大さに呆然とする。この建築家の巨大さへの希求の源は何か。私とはまるで異なる建築観が在るのを実感する。時間が遅くなったので中台禅寺の大導師とデザイナーになった。台湾仏教界の大導師であ

る。台中の議員さん達も一緒であった。台湾政界との太いパイプがあるのがわかった。李登輝氏等、現総裁までの額が並び立ち、ただの仏教徒の長だけではないのが歴然としている。LEEが台湾の中枢に在るのがわかる。不思議な建築家である。建築家は自然に権力に近寄っていく性向を持つのだろう。私にはどうしてもできない事だが、李は李の径、私は私だ。とやかく言うことではない。この大導師は李のメデイエーションのマスターでもある。当然のことながらデザイナーはヴェジタリアンフードである。おいしかった。色々と土産をいただく。メデイエーションに関する英語ヴィデオ等。IT部局、建築部局、国際部局などを備えた一大仏教組織である。台北への帰途車の混雑に巻き込まれ、台北晶華飯店に辿り着いたのは深夜一時半。ハードな一日だった。

四月三〇日

朝七時半、ホテル発。李祖原の五百八メートルのハイライズビルディング、台北フィナンシャルビルディングの現場へ。熊谷組所長の説明を受ける。この超高層ビルが完成する二年後には世界の建築潮流はどうなっているのか一抹の不安が横切るが、友人は友人である李の未来を祝福したいと思う。

昼間の便で高雄市へ。高雄の二本の超高層ビルを見学。李とは十七年位の附合いになるが、アツという間に彼がアジアのハイライズキングになるのは予想していたとは言え、仰天すべき出来事でもある。オーナーと会見し、その後高雄港の責任者と昼食。李のアジア中華人世界の人脈の広さを再び実感する。この建築家はこのママ中華人世界に巨樹を建設し続けるのであろう。

船をチャーターしてくれて、港を巡る。船からの李のハイライズの姿が良かった。高雄港がアジア貿易の中心になるのだと言う

説明を受けたが、前途は容易ならざるモノがあるだろう。しかし、日本がアジアの東北端に位置することも良く理解できた。

十六時二〇分の便で台北に戻る。李祖原事務所で彼の最近作に関するレクチャー。その後意見交換。

九時過ホテルに戻る。

二川幸夫氏ウィスキーを痛飲。ハードな二日間のハイライズの旅で、なんだか痛飲が必要な気分であったのだ。

五月一日

朝八時四十五分、中原大学の黄先生がホテルにてピックアップ、一路中原大学へ。五日間の在台だが、体が持つのかフツと不安になる。一時間程で中原大学に着く。

学科長、校長とあいさつの後、校長先生とランチ。学科間の交流を進めることで合意。アジアでの実質的な大学間交流は大事だ。仕事の進出は二の次にしなくてはならない。その事はキチンと自覚しておく必要がある。建築家は仕事には弱いからだから、他人は他人、私は私のやり方で鈍重に行くしかない。建築家である事と教師である事を両立させる事の複雑さを肝に命じる事。

午後一時、第一回目のレクチャー。熱心な反応があつた。

レクチャー後、建築学科五年生学生八名のワークショップ。率直かつ熱気がある。水準は高い。わたしの話がドクドクと吸収されてゆくのを感ずる。教師のダイゴ味である。この感じは設計とはちがうのだ。直接、人間に接し誘導する快樂とでも言おうか。

夕方、先生方学生達の歓迎パーティー。飲みに誘われたが、この日はついに疲労のピークで宿舎に帰った。飲みに行つてたらどうなっていた事やら。九時には倒れるように寝た。キャンパスは平和だ。